

## 編集後記

専修人間科学論集社会学篇発行は、今年で5年目になります。今年は、専修大学の諸論集の規則や内規等を参照して、諸実状に柔軟に対応できるよう、社会学篇の規則や内規等や投稿カードを改正し、また、投稿原稿の章や節構成の体裁も統一して、より洗練された論集になるよう努めて参りました。

こうしたことが可能となりましたのは、初代専修人間科学論集社会学篇編集主幹の大矢根淳先生がその土台を作られ、その土台を踏まえて、社会学科の会議で、編集委員の案が検討され、社会学科の先生方の英知が結集された結果であります。この場を借りて、社会学科の先生方に深く感謝申し上げます。

ところで、今年の論集の特徴は、今年4月に逝去された前専修大学教授の北川隆吉先生の追悼論集であるという点にあります。そのため、本論集では、北川先生を偲ぶ追悼文を、その弟子である柴田弘捷先生、沖壽子先生、及び、川上周三が執筆致しました。

また、北川先生の経歴紹介文を北川隆吉先生のプロフィールとして掲載致しました。その経歴紹介文では、2012年に撮影された北川先生の御写真も掲載致しました。ブレザー姿の気取らない在りし日の先生が彷彿とされる御写真であります。その気取らない普段のお姿の先生の御写真にあわせて、経歴紹介文名を北川隆吉先生のプロフィールと致しました。北川先生は、専修大学大学院社会学専攻の設立とその充実に寄与された先生であり、また、社会学者であると共に社会実践家でもあり、オールドセッターとして、賀川豊彦と交流があり、その実践を通じて、社会問題の解決に尽力された先生でもあります。

昨年と比べて、今年の論集のもうひとつの特徴は、今年は、博士の学位請求論文が本学社会学専攻博士課程の矢崎慶太郎くんから提出され、その審査が終了し、判定

結果が合格となったことです。課程博士号は、これまで、社会学専攻では、5人授与されていますので、矢崎くんは6人目になります。社会学専攻としては、久々の快挙であり、後進への励みになります。今後も、こうした授与者が続くことを期待致します。

昨年、『専修社会学』が終巻となり、そのため、卒論講評と卒論要約文及び修論要約文がオンライン上の掲載となりました。その関係で、昨年から本論集に、専修大学人間科学部社会学科の卒業論文題目一覧と専修大学文学研究科社会学専攻の修士論文題目一覧を掲載致しております。今年の論集も、昨年と同様、専修大学人間科学部社会学科の卒業題目一覧、専修大学文学研究科社会学専攻の修士論文題目一覧と博士課程題目一覧を掲載致します。

今年の専修人間科学論集社会学篇の歩みを振り返りますと、前期に、今年社会学篇の内規や規則等の変更や投稿カードの方式変更が社会学科の会議で検討され、その変更が了承されました。それを受けて、投稿原稿締め切り日が11月後半であることから、7月後半から投稿原稿希望を募り、改正内規・改正規則等や改正投稿カードの内容については、専修大学出版局の相川美紀様に、編集委員から9月に説明を行って了承を得、10月に入ってから、改正内規や改正規則等と共に改正投稿カードを投稿希望者にお送り致しました。

原稿の収集は、昨年の例に倣い、締め切り日の近辺で、投稿予定者に締め切り日をお知らせし、その周知徹底に努めました。編集の段階では、もう一人の編集委員である永野由紀子先生からもいろいろと御協力と御助言を頂きました。

編集の実務を担当された相川様にも、その場その場で的確な御助言と御協力を頂きました。お二人のお陰で無事発行に漕ぎ着けることができました。この場を借りてお二人に厚くお礼申し上げます。

(社会学篇編集主幹 川上周三)